Aセメ水曜3限文献リスト

〈冬の旅関連〉

『シューベルトの「冬の旅」』イアン・ボストリッジ著、岡本時子,岡本順治訳、2017年、アルテス・パブリッシング

こちらが日本語の基本文献になるかと思います。

(Original title: *Schubert’s Winter Journey: Anatomy of an Obsession*)

『シューベルト作曲歌曲集冬の旅：対訳と分析』南弘明, 南道子著、2005年、国書刊行会

こちらには譜例が豊富に載っていました。

『死せる菩提樹：シューベルト《冬の旅》と幻想』梅津時比古著、2018年、春秋社

東大には所蔵されていませんでしたが、他の論文の参考文献に挙げられています。

「連作歌曲集「冬の旅」から読むシューベルトとミュラーの生きた時代：時代を超えた政治的メッセージ」岡本時子、流通経済大学社会学部論叢、第28巻1号、pp. 81-112

冬の旅の中に政治的なメッセージを読み取るという切り口から作品を解釈するものでした。CiNii論文からオンライン上で閲覧可能です。

「シューベルトの歌曲集『冬の旅』(1)-(6) ：歌手とピアニストの為の演奏と解釈」野々垣文成、名古屋柳城短期大学研究紀要、19-25巻

声楽家の立場から冬の旅を音楽的にたどった論文でした。6つの論考に分かれていますが、いずれもCiNii論文からオンラインで閲覧可能です。

〈シューベルト歌曲全般〉

『シューベルトの歌曲をたどって』　ディートリヒ・フィッシャー＝ディスカウ著、原田茂生訳、2012年、白水社

こちらは総合図書館にしか所蔵されていませんでしたが、シューベルトの歌曲全般に関して日本語で読める文献の中では、基本文献に相当すると思います。

〈ヴィルヘルム・ミュラー関連〉

『ヴィルヘルム・ミュラーの生涯と作品：〈〈冬の旅〉〉を中心に』渡辺美奈子著、2017年、東北大学出版会

東大には所蔵されていませんでしたが、ミュラーの観点から冬の旅について書かれた本で代表的なものは本書だと思います。